

北極圏の温暖化が日本に異常気象をもたらすメカニズム

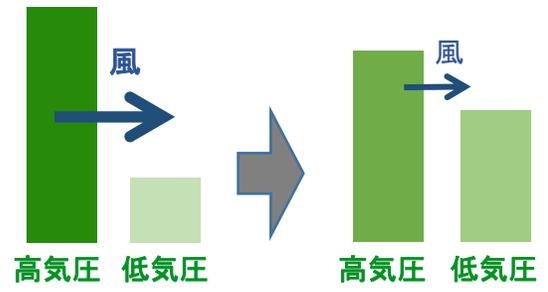
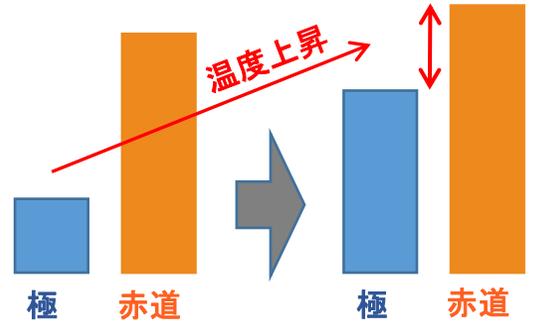
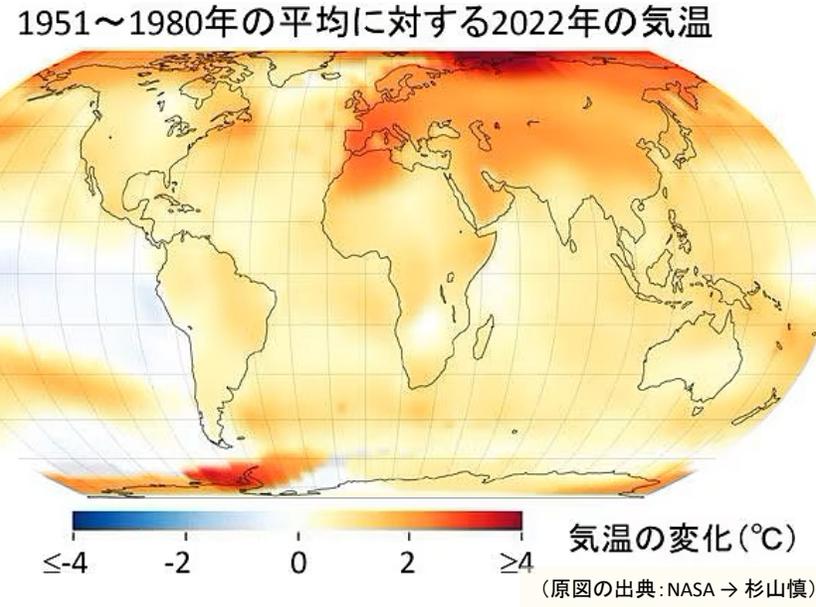
やはり、地球の表面は、全体として**温暖化**しており、そのきっかけを作ったのは、**人間の活動**であると捉えて間違いない。

温暖化の種々の原因はさておき、全体の平均気温の上昇はそれほど大きくはないが、特に**極付近の温度上昇**が大きい。

極付近の温度上昇が激しい理由は、むしろ、赤道付近と極付近の**温度差が狭まる**ように進行していると解釈する方が適切であろう。
それは、地球全体の温度が**均質化**する方向に進行しているわけであり、ある意味で**自然**であり、好ましいことである。

地域の温度差が小さくなれば、温度差による**気圧差**も小さくなり、**風が弱くなる**。

<作成: stnv基礎医学研究室>



強いジェット気流はまっすぐ進むが、**弱いジェット気流は蛇行しやすい**。

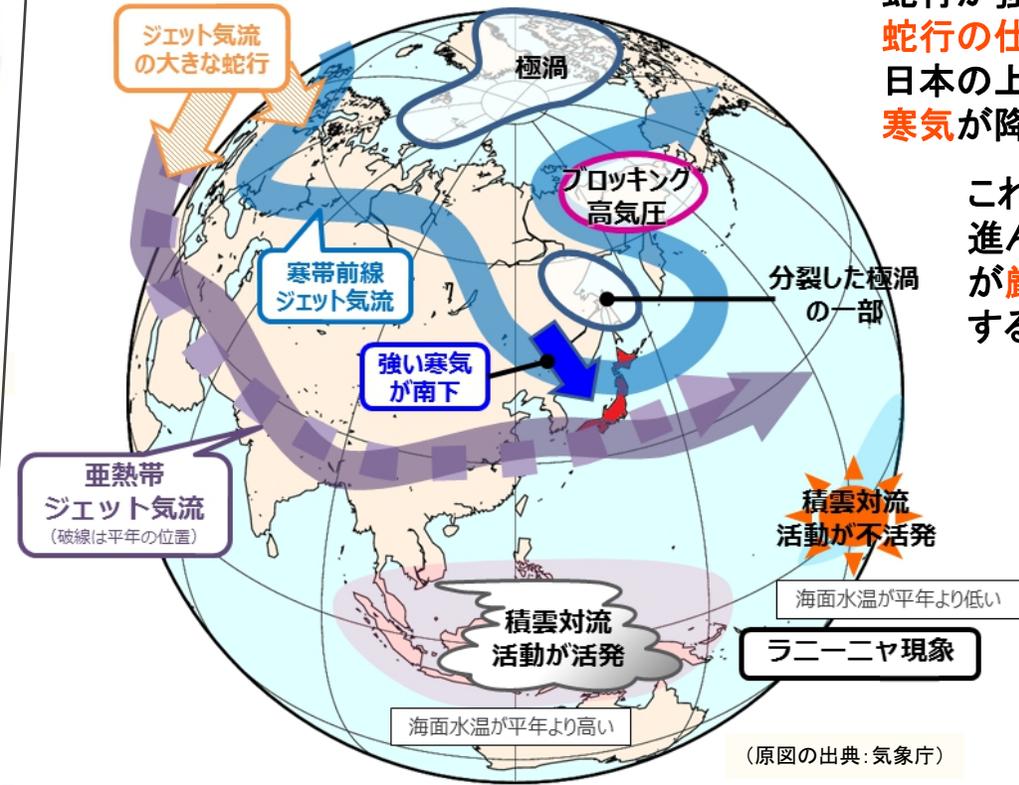


即ち、極付近の**温暖化**が、**ジェット気流の蛇行**を強めたのである。

蛇行が強くなると、その**蛇行の仕方**によっては日本の上空に北極圏の**寒気**が降りてくる。

これが、温暖化が進んでいても**日本が厳寒**になったりする理由である。

逆に、寒帯ジェット気流の蛇行が北上した場合、南方の温かい(熱い)空気に包まれ、**夏場には猛暑**となる。



今後、極付近の温度上昇が止まるようであれば、赤道付近と極付近の温度差が比較的少ない状態で安定化し、各種の風が穏やかに流れ、海流も穏やかに流れ、異常気象が減る時代になると予想される。

しかし、対策を講じなければ、既に温暖化の悪循環(雪や氷の減少、極付近での微生物の繁茂、太陽熱の吸収過多、それによる温度上昇)が生じているため、異常気象の激化は避けられないであろう。